「日々の理科」（第 4446 号） 2026, 10, 12

「秋の北極圏旅行記（24）」

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所

田中　千尋　Chihiro Tanaka



今回滞在したポルユス駅は、スウェーデンの北極圏にある小さな駅です。写真は 20 年ほど前のもので、夏に列車が来た時の用紙です。



この日は、この夏最後の列車運行日で、駅前（というよりも線路）で即席のイベントをしました。折り鶴をたくさん作って、乗客に配ったのです。



おかげで、列車の発車を遅らせてしまいました。



当時の駅長のパトリシアと運転士のアンダション（アンダーソン）さんです。駅舎の扉の奥は、カフェとギャラリーになっていました。



最後の列車は、ヨックモックに向けて去っていきました。秋にはもう旅客列車は運休なので、今回は乗れませんでした。また夏に来たいと思いました。



これが今回宿泊したバンドラヘム（コテージ）です。前駅長のパトリシアが建てて、内装も自分でデザインしたものです。全部で４区画あり、各区画には最大６人（エキストラベッドを使えば７人）まで泊まれます。宿泊費は「１人いくら」ではなく「１区画（７人まで）」で１泊 1000 クローネ（約 17,000 円）で、物価の高い

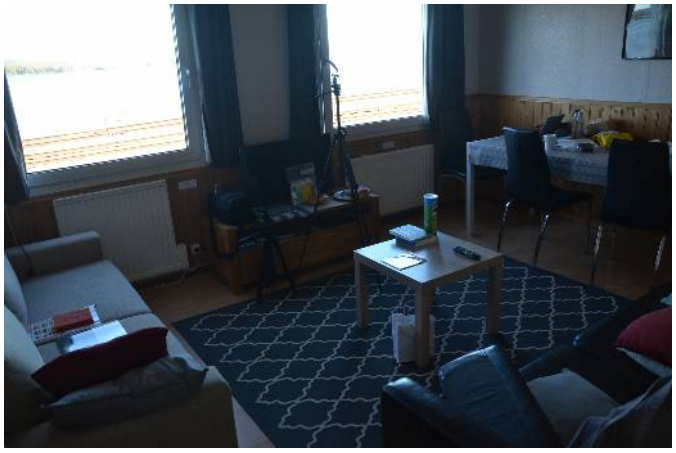
スウェーデンでは破格の設定です。



私は手前の寝室を独占させてもらいました。この部屋からはオーロラも湖も見えません。



北側の寝室です。通常２人ですが、エキストラベッドを入れて、ご家族３人で使いたいということで、そうなりました。この部屋からはオーロラと湖がよく見えます。



広い居間です。大きな窓からは、線路、湖、オーロラが一望できます。１２月の厳冬期でも、暖かい部屋の中からオーロラ観望ができる、まったくすばらしいコテージです。今回はこの部屋で食事もしました。私は仕事部屋にもしていました。



居間から見えたオーロラです。部屋を暗くして、窓際に三脚を立てれば、撮影もできます。わざわざ外出しなくてもオーロラが見えるコテージは、スウェーデンでもなかなかないと思います。



玄関わきのキッチンです。大きな冷蔵庫があって、日本から持ってきた食材や、現地のスーパーで買ったものを入れておけるので、大変助かりました。小さなテーブルと椅子もあります。電磁調理器や電子レンジもあるので、食材さえあれば大抵の料理は作れます。日本から持ち込んが「お米」「お茶漬けのり」「インスタントワンタン」などが役に立ちました。現地でもお米は手に入りますが、炊飯器はないので、お鍋で炊きます。といだお米に、サラダ油を少し入れると、焦げ付かずにつやつやの炊き上がりになります。